二〇一五年三月一七日（参加者一五名）

朱の欄に佇ちて一望梅の丘　ひかり
梅日和観音映す鏡池　〃
泥水に足なとられそ蓮植うる　〃
白梅の枝に透きたる空真青　〃
逍遥すなぞへの径は梅盛り　〃
遠足の子らのリュックがベンチ占む　〃
彩窓を貫く春日堂に満つ　ぽんこ
春塵や五百羅漢の怒り顔　〃
石櫃羨道深く滴れる　〃
閻王の大きまなこや春埃　〃
観音の御手指す丘の梅万朶　〃
紅白を咲き分く梅に人だかり　明日香
節くれし老幹なれど梅真白　〃
春塵や仁王の掌にも生命線　〃
つばくらめ一閃二閃空ま青　宏虎
紺碧の空に溶けこむ梅真白　〃
大砲のレンズ向けられ梅盛る　せいじ
梅林の小道を塞ぐカメラマン　〃
あたたかや撫牛なでて吉願ふ　よし子
六甲の嶺々まろやかに笑ひそむ　〃
風船売る露天に一つだつこちゃん　うつぎ
伽羅蕗を買ひもす荒神詣でかな　〃
参道の露店を梯子春うらら　よう子
落椿結界なせる禊橋　〃
草団子並ぶ参道寄り道す　わかば
白梅の影くつきりと鏡池　〃
門入りて仰ぐ天守に風光る　満天
クリスタルビル春空に溶け込みし　〃
草萌ゆる利休産湯と標す井に　かかし

定例句会みのる選

二〇一五年三月一七日（参加者一五名）